

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	栗東市立大宝西保育園
代表者氏名（管理者）	園長 内田 祥子
法人名	栗東市
定員（利用人数）	90名（88名）
施設・事業所所在地	滋賀県栗東市十里400番地
T E L	077-551-6990
F A X	077-551-0486
電子メール	yoji@city.ritto.lg.jp
ホームページアドレス	http://www.city.ritto.lg.jp/

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	2019年9月4日と9月6日

○ 総合評価

- ・ 栗東市の北西部に位置し、周辺に田畑が広がる豊かな自然環境に囲まれた保育園で、1979年に同和対策事業の一環として通園地域の縮小を図り、地域の生活の安定と児童福祉の向上を目指して、また、地域の切実な要望で新設開園されたのが本園である。

『子どもの人権と最善の利益を守り＜生きる力＞の基礎を培う』と謳う市の保育・教育の理念に基づき、人権・同和教育を基本にして1、基本的な生活習慣や態度を身につけた子どもを育てる 2、目的をもって遊びや生活をする子どもを育てる 3、友だちとなかよく遊んだり、助け合ったりする子どもを育てる 4、感動する心を持ち、豊かに表現する子どもを育てるという4つの目標を立て、園長以下全職員が共通理解の基で保育実践に努めている。

隣接しているひだまりの家をはじめ、デイサービスに来訪される地域の高齢者との交流や保幼小連携をするなど、様々な方々とのかかわりを大切に子ども達の経験を積み重ねる地域密着の保育を推進している保育園である。

○ 特に評価の高い点

- 1、地域の世代間交流「ひまわり交流」では、地域住民45軒60人の住民と園児（5歳児中心）の交流が行われている。サツマイモ苗植え、大西っ子祭り、運動会への招待、サツマイモ掘り、お芋パーティー、餅つき、年賀状、3月には一年間のお礼状等8回の案内状やお願い状を園児たちで作成し保育士と共に伝統として園児が各戸配布を続けている。
- 2、「ひまわりのたね」という年6回発行する手紙は、保護者の人権啓発を目指すもので年3回の人権研修「H♡Tたいむ」も開催している。「保育参観」「園長挨拶」「講師講演の聴講とグループトーク」「保護者会からの挨拶」「アンケート記入」といったプログラムで第1回目は終了した。

これらの活動は、地域の人々の協力を得る中で子ども達の育ちを共有し、保育園、保護者と地域が一体となって人権教育をベースにした子育てに取り組んできたことが積み重ねられ伝統となって醸成されてきていることが証明されているようである。

- 3、子どもたちは身近な生き物に触れ合う中で、ザリガニを飼育していたが次第に弱って死んでしまい、5歳児が園庭の桜の根元に埋葬し、5歳児全員が手を合わせて「天国に行つてね」と祈っている姿が見られた。人間も動物も植物も総て生き物として大切に思う心が育っている。
- 4、絵本だよりを年4回発行し、年齢に応じた絵本を選択・推薦する活動を行っている。毎週金曜日には親子で1冊借りられて、翌週水曜日が返却日となっている。更に5歳児には、お隣の「ひだまりの家」にある『ゆめのくに』でも本を借りることが認められている。絵本棚近くの廊下に、年齢に応じたお薦めしたい絵本の紹介として各絵本の下に簡単なあらすじを添えて掲示している。保護者が子どもたちにどのような絵本を読み聞かせたら良いか参考になり、関心が持てるよう取り組んでいる。未満児のクラスで「次はどのお話にしようかな」との声掛けに「○○のお話し」「▽▽のお話し」と口々にリクエスト、「では○○のお話の人が多いのでこのお話で良いですか」

「はい」という返事の後には、一斉に絵本に集中、所々で物語の中での返事や呼びかけを大きな声で伝え何時も楽しみにしている場面なんだな一と感じられ、絵本への関心の高さ、集中力に感動した。

- 5、新入園児の保護者に保育士体験を実施し、好評を得ている。この保育士体験は年1回実施しているが、保護者からは、出来たら又参加したいとの要望があるほどなので、準備が大変だと思われるが、保育士との共通理解が深まることが期待できるので、当活動を発展させていって欲しい。

○ 改善・要望が求められる点

- 1、ヒヤリハットの取り組みは、今年度については僅かな事例しかあがっていない。事故防止策としてさらなる組織的な取り組みが望まれる。
- 2、一時保育については、栗東市公立保育園では実施していないが、せめて半径 500m内の希望者が出て来た場合は、引き受ける姿勢が望まれる。地域貢献の大きな柱の一つと受けとめ、地域と共にある保育園として、実施について市との協議を始めて欲しい。
- 3、降園時、保護者が今日は連絡がないのかどうなのか、不安げにしているのを保育者が気づかず子どもに聞いてもはっきりしない様子で、保護者は不満気に園から出ていった姿が目についた。保育士が多忙であったと思われるが、お迎え時の保護者が来られる時は連絡がある無しに関わらず、一言声掛けする配慮が望まれる。
- 4、園正門のインターホン設置や防犯カメラについては、地域関係諸機関との話し合いが必要であろうが、いずれも栗東市立の諸機関であることから、前進を期待したい。
- 5、廊下でパンツの着脱を行っているが、プライバシー保護の観点から、2歳児とは言えせめて衝立をするとかの配慮が望ましいのではないかと思われた。
- 6、送迎テラスの支柱、雨どいに子どもたちがぶつかった時の保護シートが破損しており、至急の修繕を望みたい。

4、 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の結果について真摯に受け止め、今後の運営にいかしていくよう努めてまいります。

特に肯定率が低かった項目については、全職員で共通理解を図り、前向きに取り組んでいきたいと考えます。

不審者対策等の安全管理については、様々な状況を想定する中で具体的な方策を講じて、園運営に取り組んでまいります。また「園の保育について、意見や意向を伝えることができますか」という項目について肯定率が低い点においても、園が特に大事にしている家庭との連携の在り方を問われるものです。保護者、家庭との連携について改めて課題を明らかにし、お子様を真ん中において、さらに豊かに繋がっていきけるよう、今後も全職員で取り組みを深めていきたいと考えます。